

感染症発生動向調査により届け出られた 茨城県における梅毒の概要（2025年まとめ）

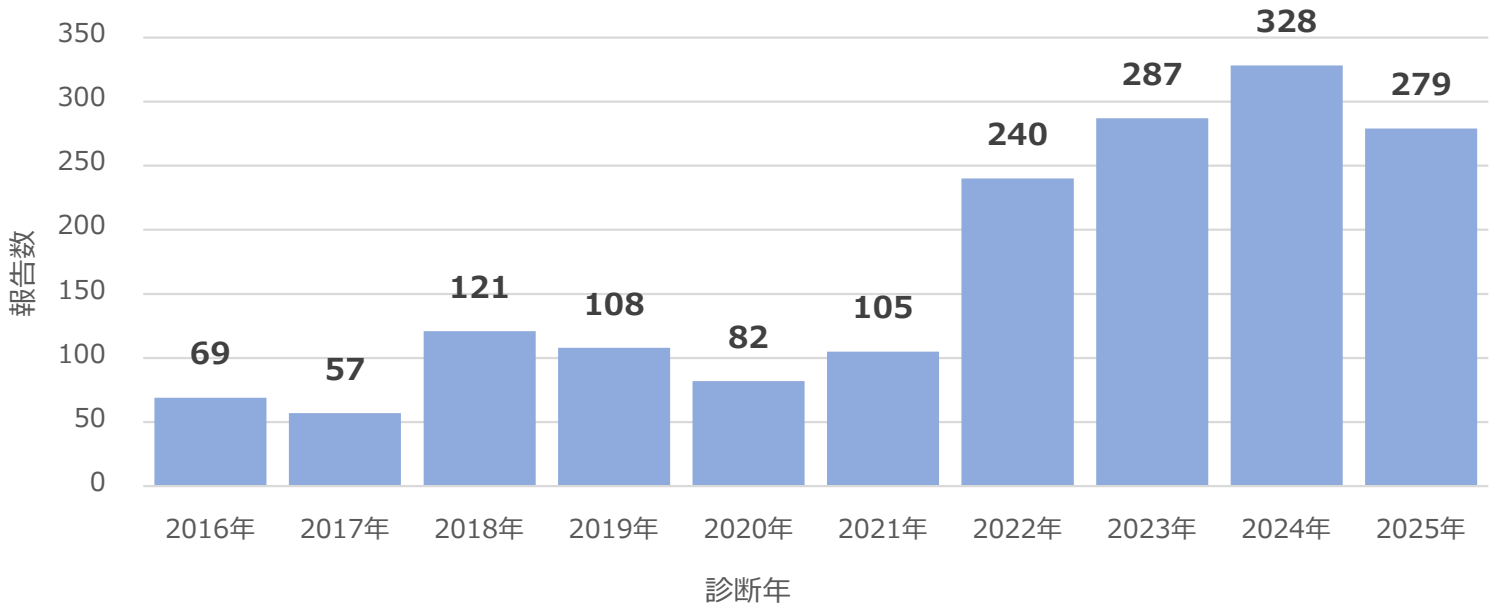
茨城県感染症情報センター

※ 2026年2月13日時点集計のため、以降の遅れ報告は含まず

茨城県の梅毒報告数の推移

■ 2025年の茨城県の梅毒報告数は、5年ぶりに減少した

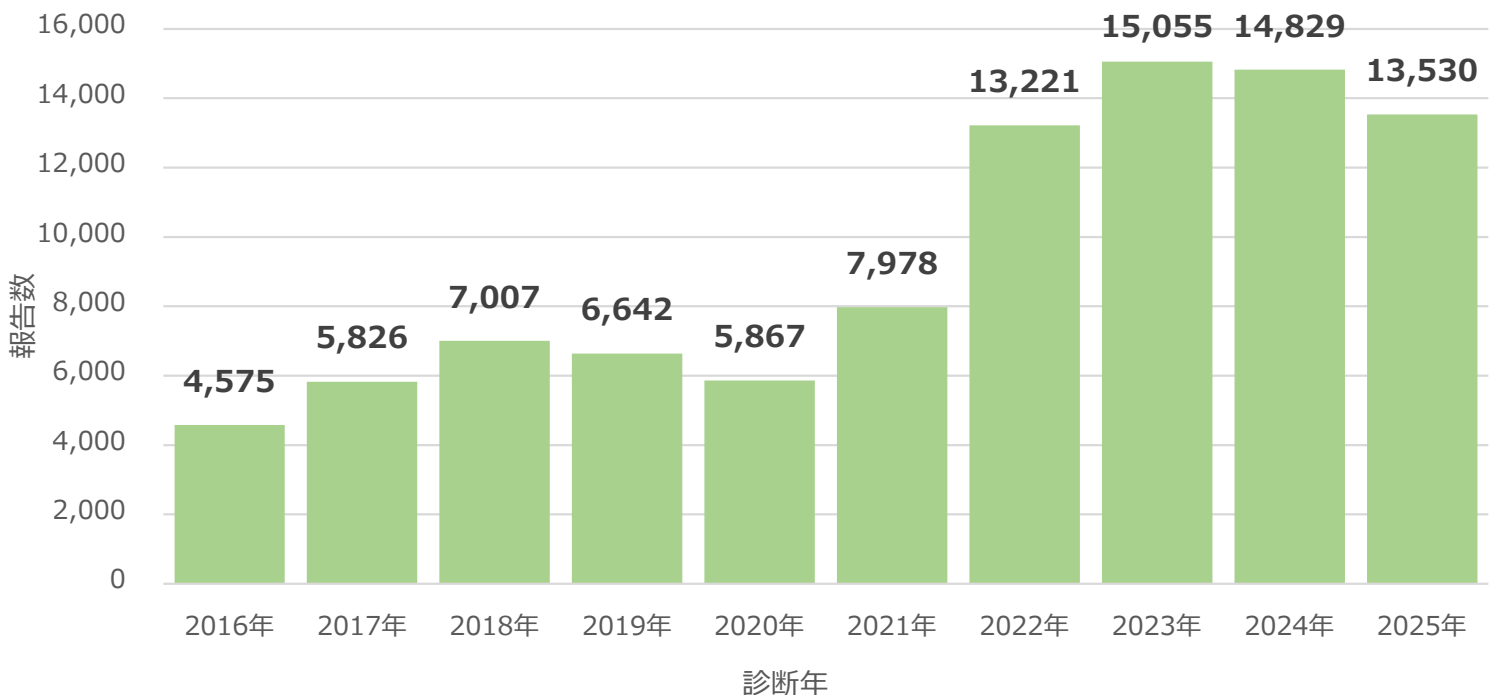
茨城県内における過去10年間の梅毒報告数（2016年～2025年）



全国の梅毒報告数の推移

■ 2025年の国内の梅毒報告数は、2年連続で減少した

国内における過去10年間の梅毒報告数（2016年～2025年）



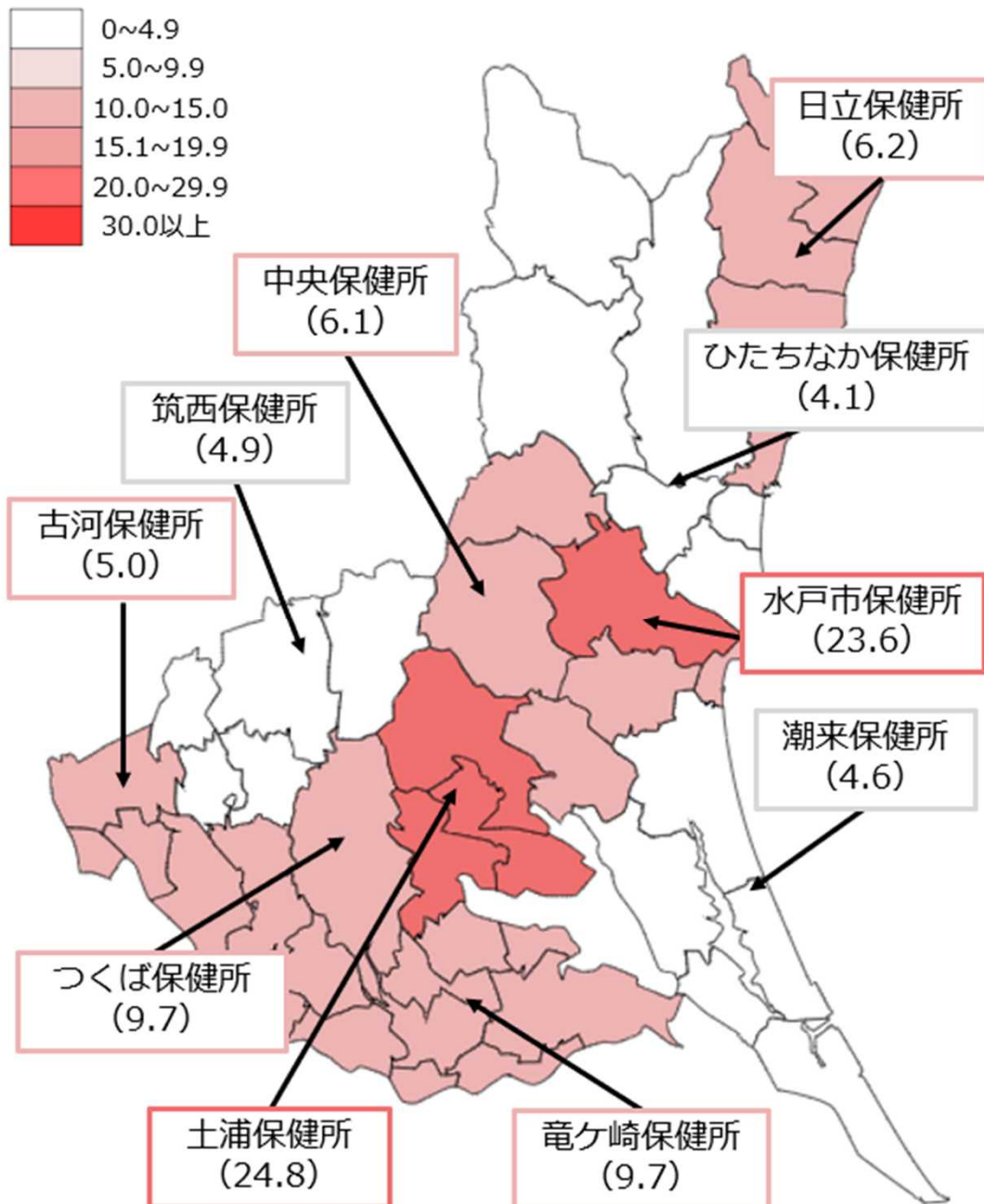
管轄保健所別 梅毒報告状況

- 2025年の管轄保健所別の梅毒報告数は、水戸市保健所が63例、土浦保健所が62例と多く、2保健所が県内の届出の45%を占めた
- 人口10万人当たり梅毒報告数は、水戸市・中央保健所は昨年から増加したが、その他保健所では減少した

茨城県内における管轄保健所別 梅毒報告数（2025年）

	中央	ひたちなか	日立	潮来	竜ヶ崎	土浦	つくば	筑西	古河	水戸市	計
男	8	12	12	7	28	49	24	8	8	51	207
女	3	2	2	5	16	13	12	4	3	12	72
計	11	14	14	12	44	62	36	12	11	63	279

管轄保健所別 人口10万人当たり報告数（2025年、n=279）



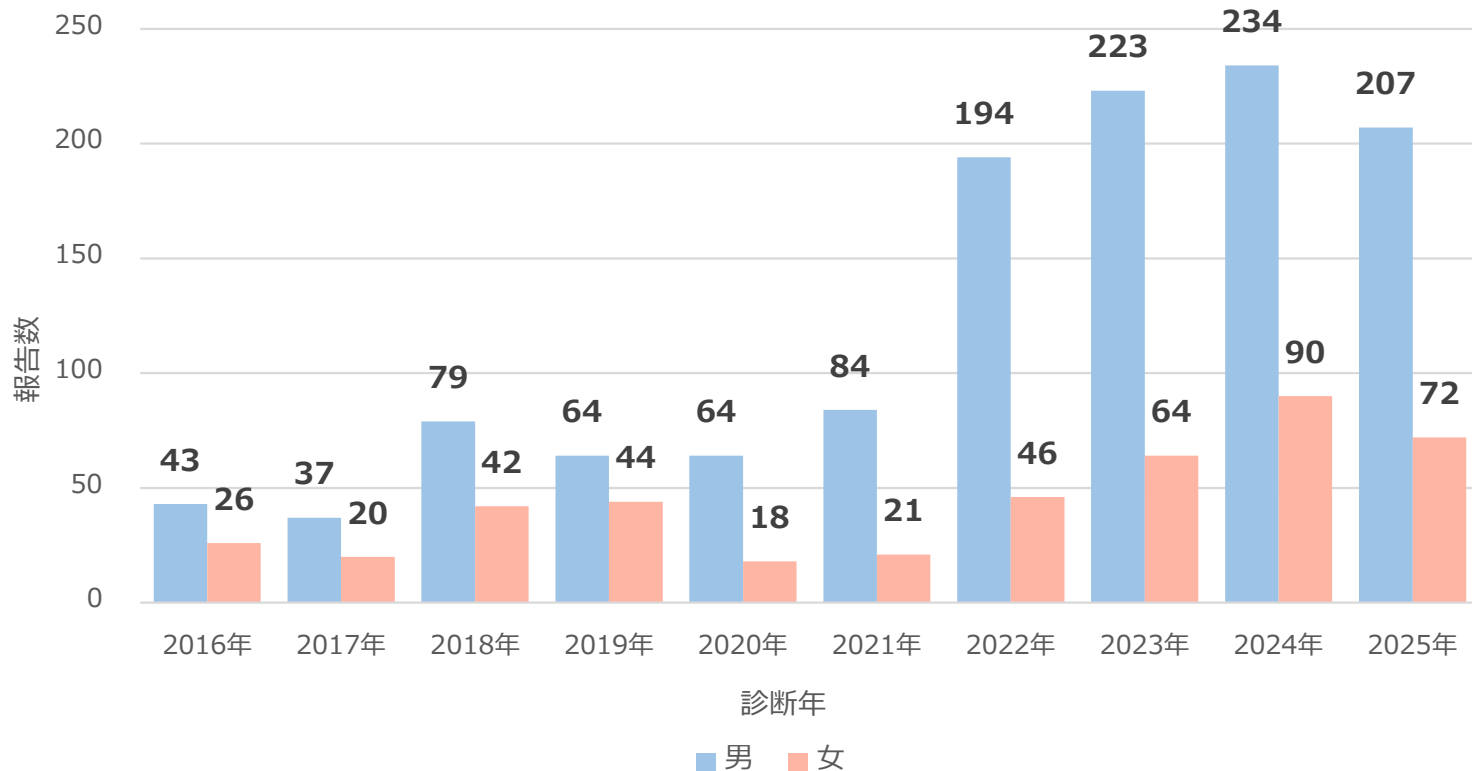
※ () 内は人口10万人当たり報告数

※ 人口は「茨城県の人口と世帯(推計)2025年1月1日現在」を使用

性別 梅毒報告状況

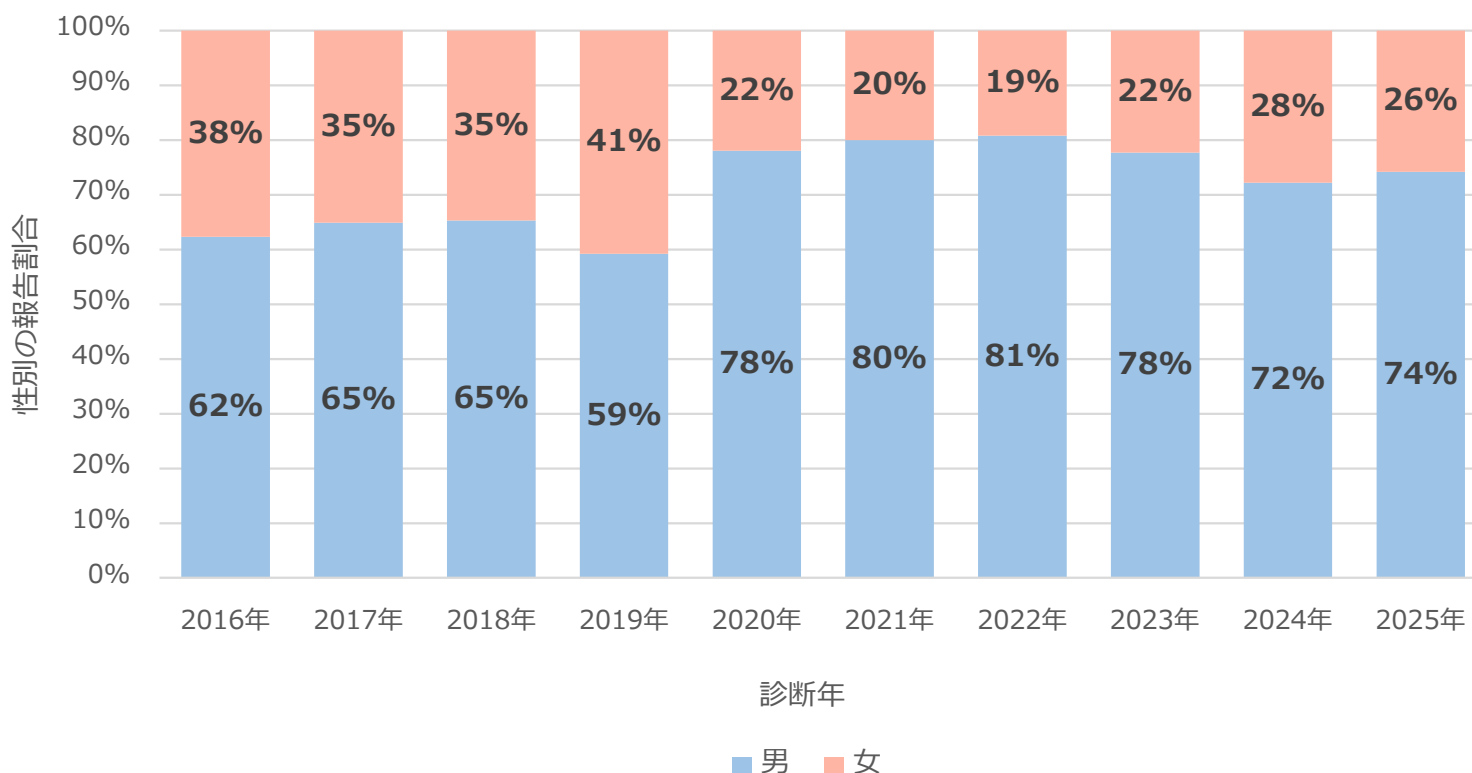
- 2025年に報告のあった梅毒症例は男女ともに前年から減少し、男性は12%減、女性は20%減であった

性別 梅毒報告数（2016年～2025年）



- 近年梅毒症例の男女比は、男性が70～80%、女性が20～30%で推移しており、2025年は前年と比較し男性の割合が微増した

性別 梅毒報告割合（2016年～2025年）

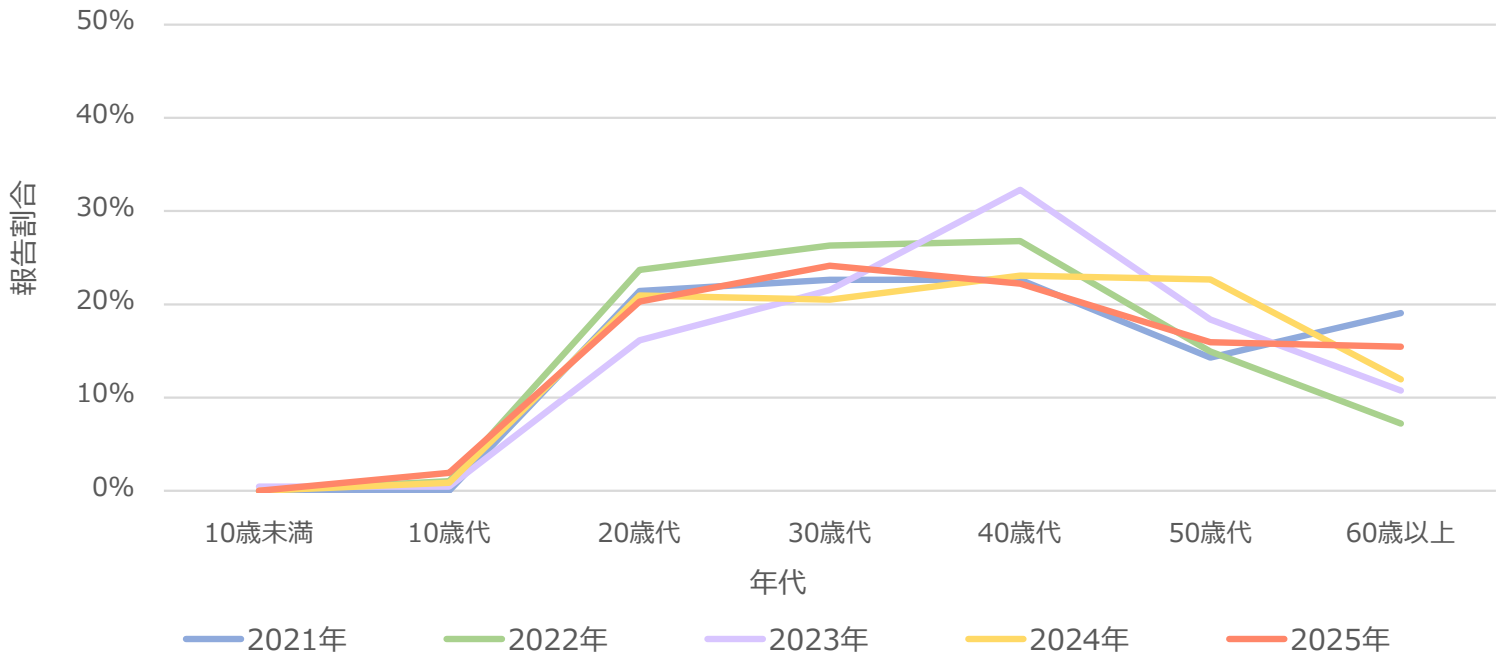


年代別 梅毒報告状況

【男性】

- 2025年に報告のあった男性梅毒症例の年代別割合は、20歳代・30歳代・40歳代がそれぞれ20%程度を占めた
- 前年と比較すると、30歳代の割合が増加し、50歳代の割合が減少した

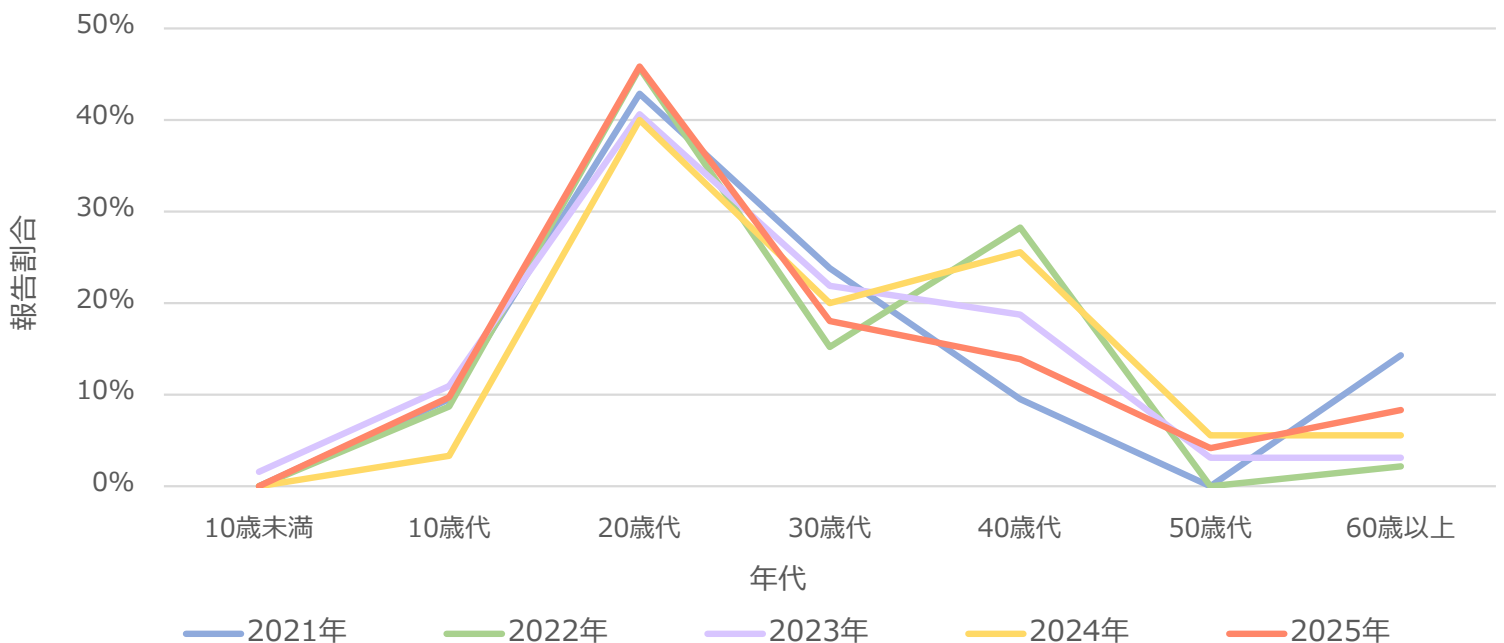
男性の年代別 梅毒報告割合（2021年～2025年）



【女性】

- 2025年に報告のあった女性梅毒症例は、直近5年間のなかで20歳代の割合が最も高かった
- 前年と比較すると、10歳代・20歳代の割合が増加し、40歳代の割合が低下した

【女性】年代別 梅毒報告割合（2021年～2025年）

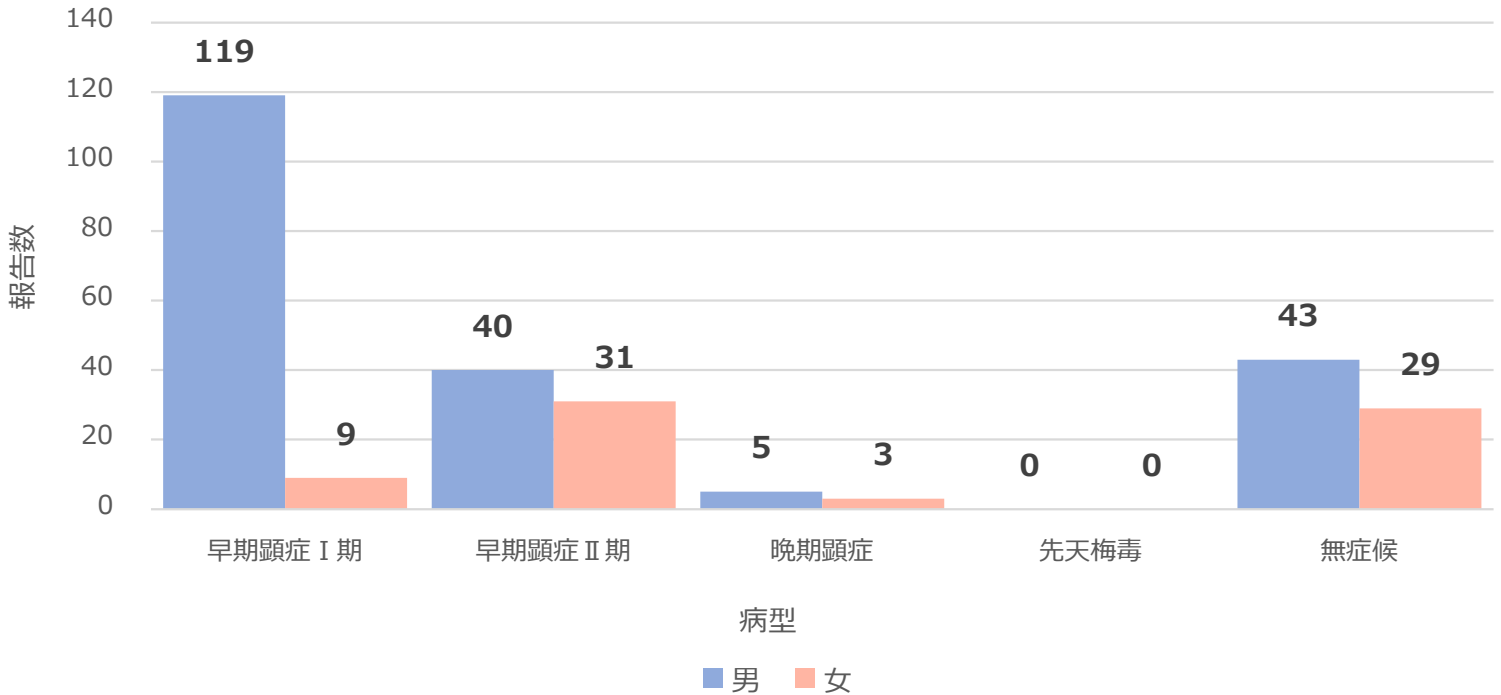


病型別 梅毒報告状況

■ 梅毒症例の病型について、下記のとおり性別による違いがあった

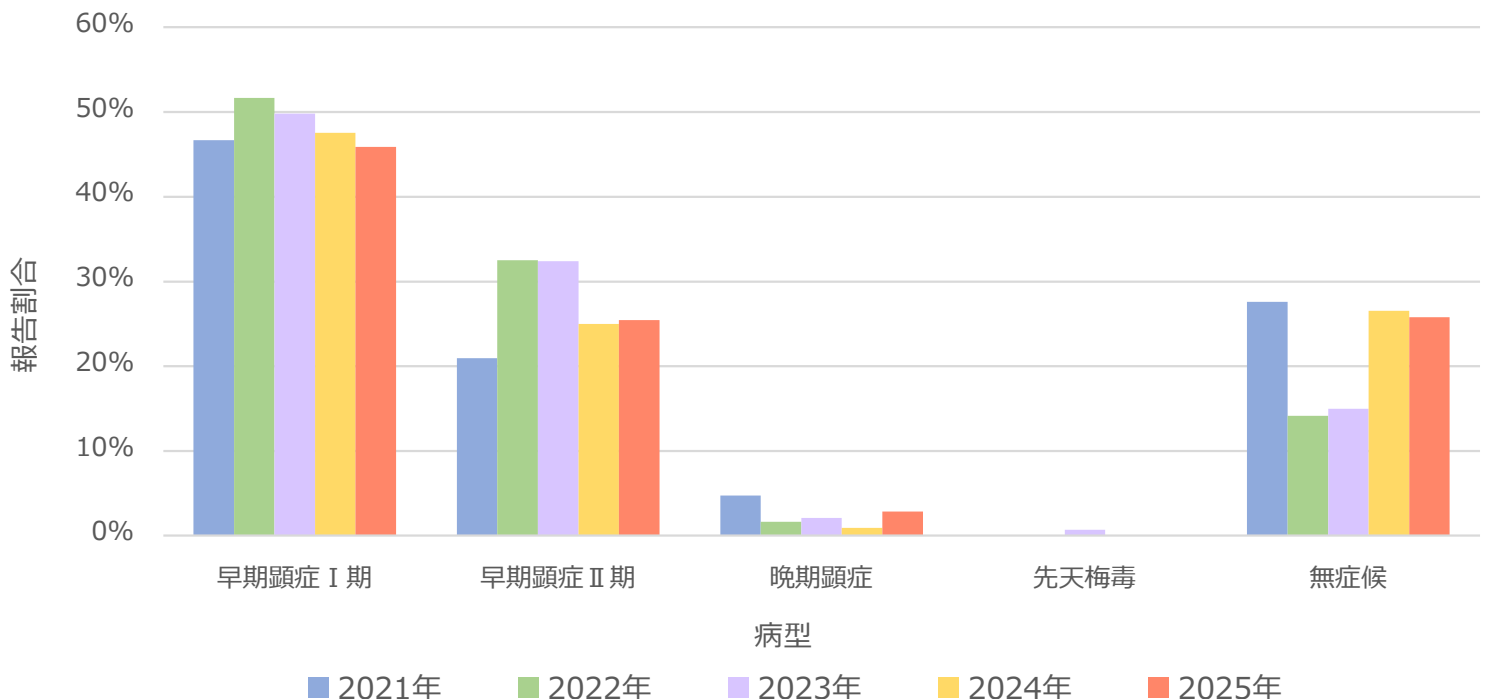
- ・ 男性：早期顕症Ⅰ期（57%）が多かった
- ・ 女性：早期顕症Ⅱ期（43%）、無症候（40%）が多かった

茨城県内における性別・病型別 梅毒報告数（2025年、n=279）



■ 2025年に報告のあった梅毒症例の病型別報告割合は、前年とほぼ同様の傾向であった

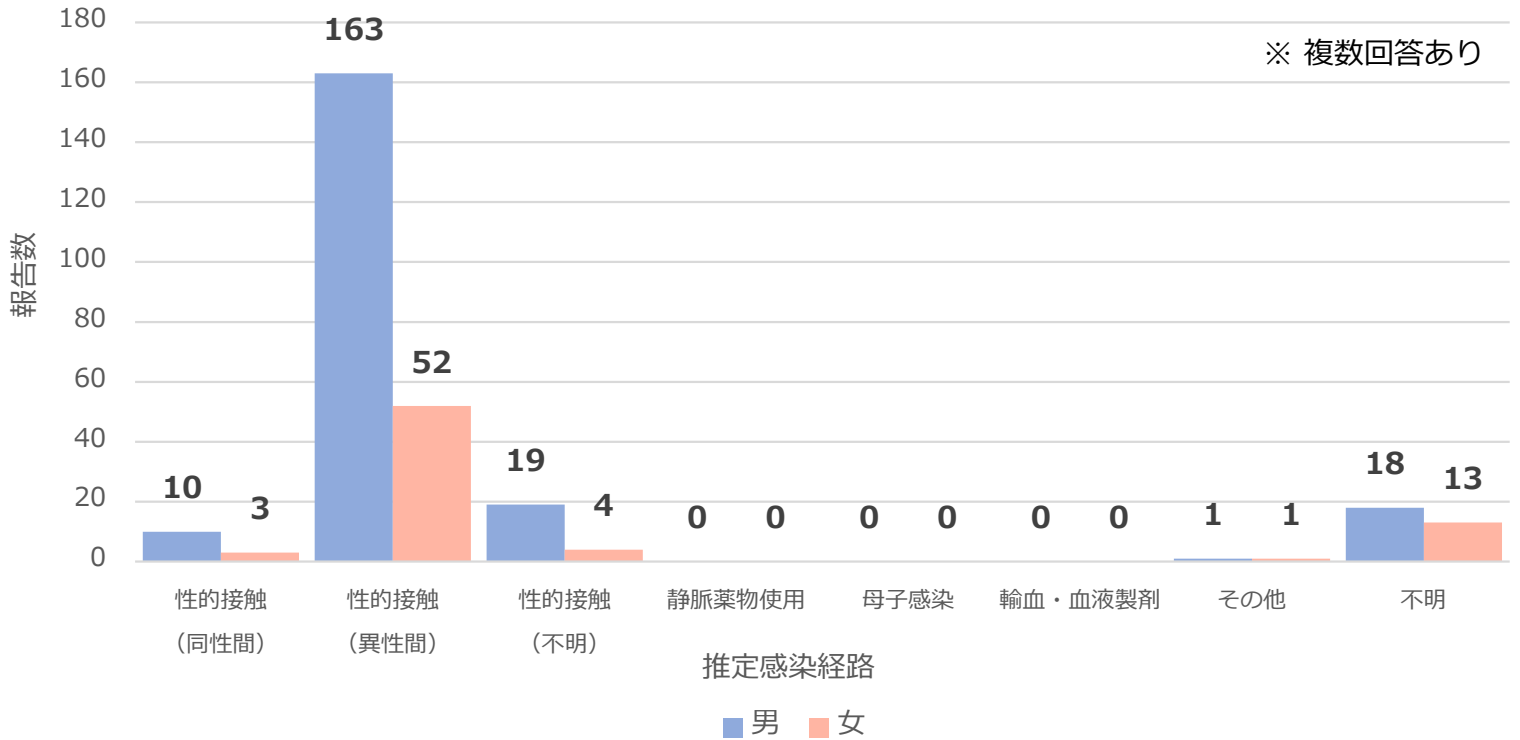
病型別 梅毒報告割合（2021年～2025年）



感染経路別 梅毒報告状況

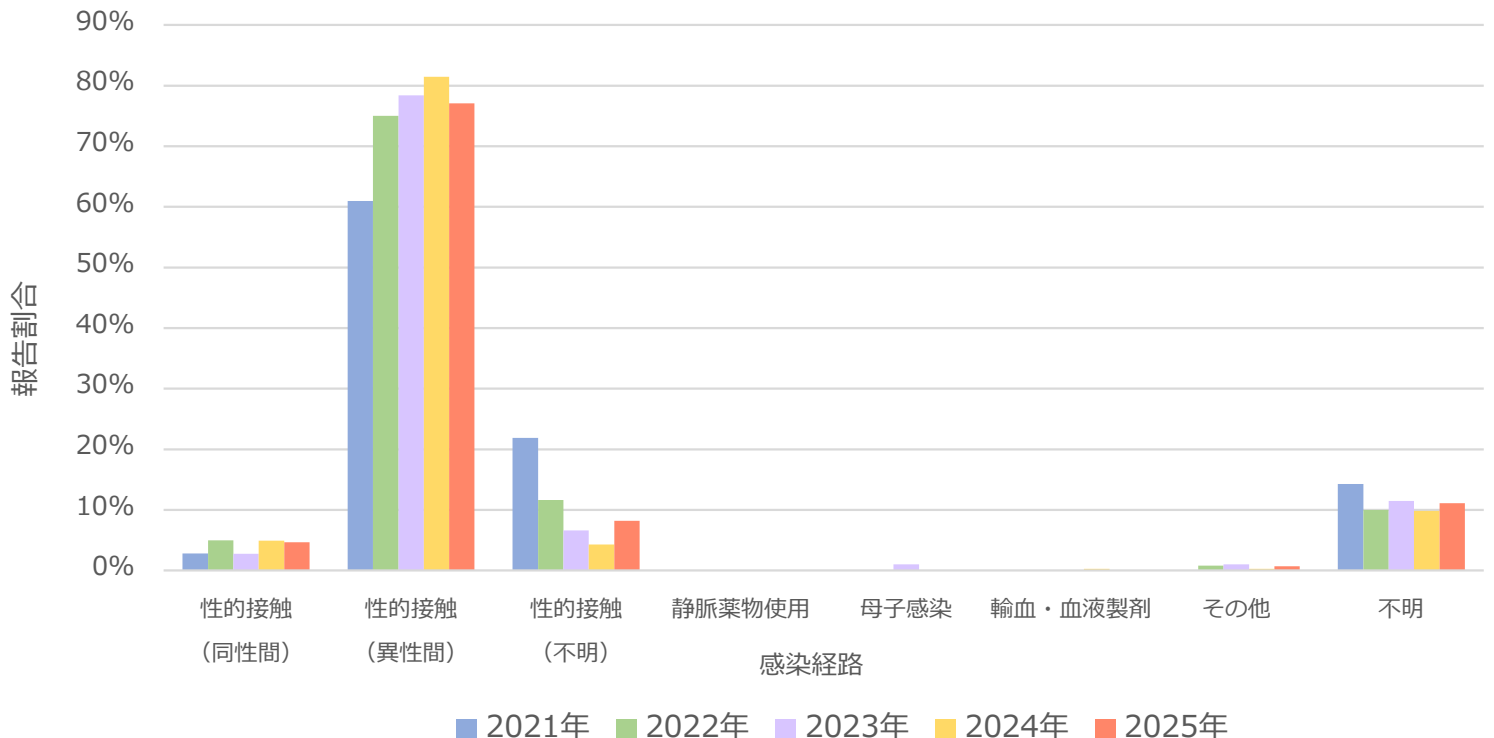
- 2025年に報告のあった梅毒症例の感染経路は、男女ともに「異性間の性的接触」が最も多かった
- 男性のうち5%（10例）は「同性間の性的接触」であった

茨城県内における感染経路別 梅毒報告数（2025年、n=279）



- 前年と比較すると、異性間の性的接触の割合が減少し、性的接触（不明）の割合が増加した

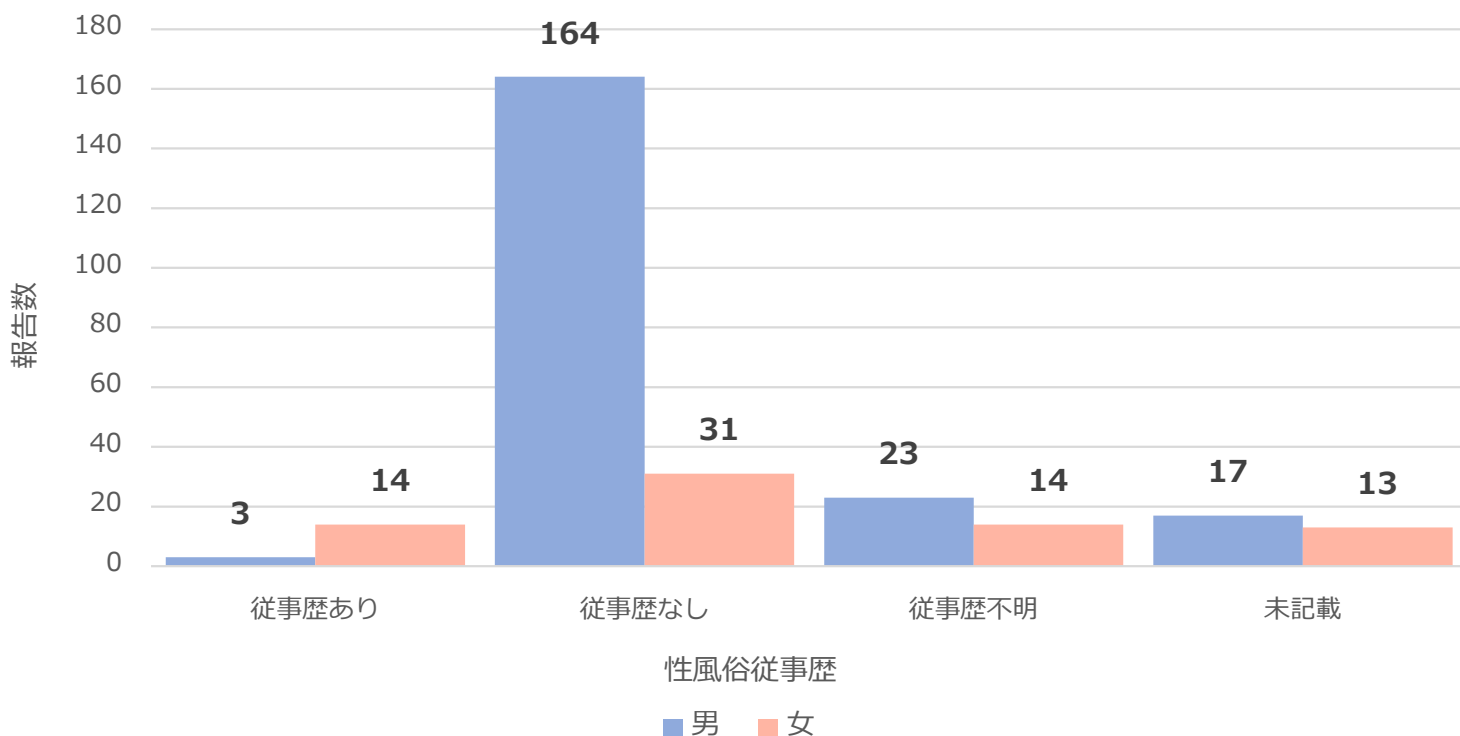
感染経路別 梅毒報告割合（2021年～2025年）



性風俗産業従事歴別 梅毒報告状況

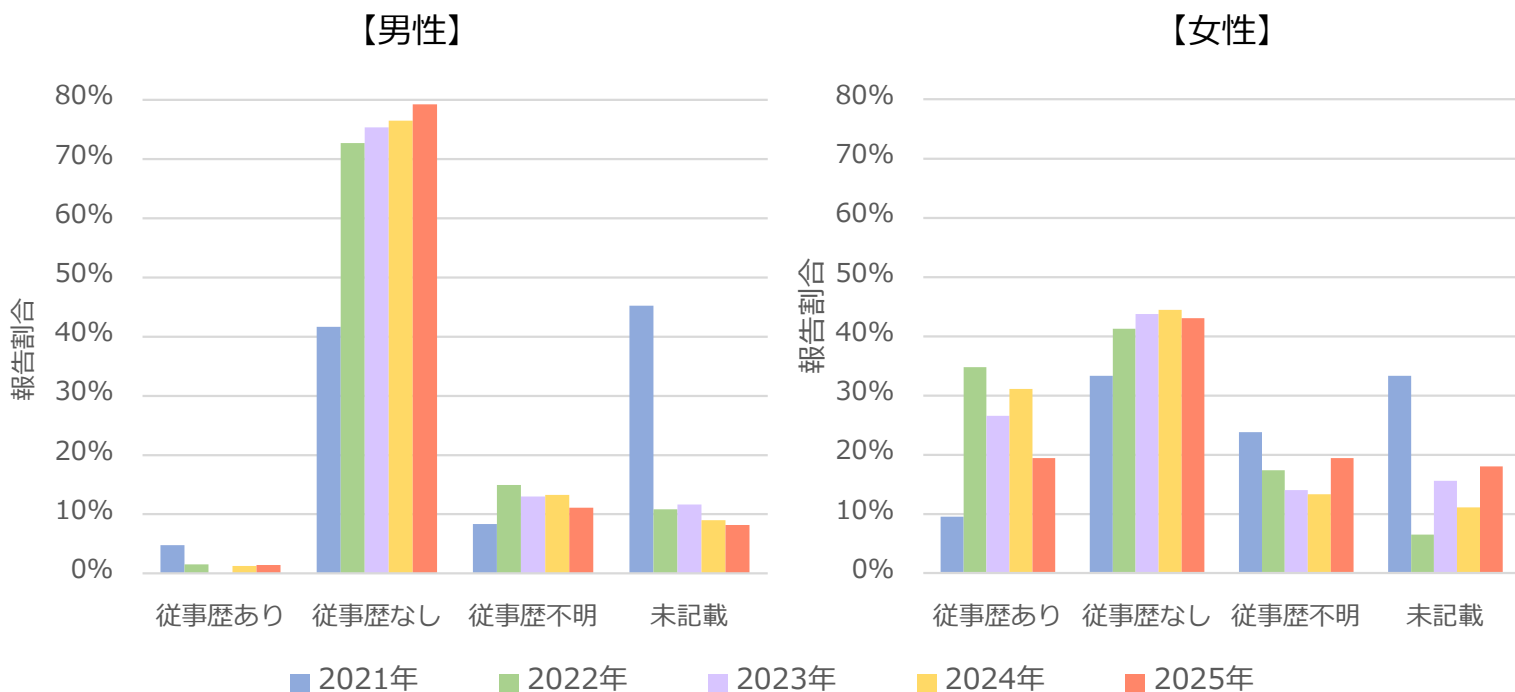
- 2025年に報告のあった梅毒症例のうち、性風俗産業従事歴ありの男性は3例（1%）、女性は14例（19%）と女性に多かった

茨城県内における性風俗従事歴別 梅毒報告数（2025年、n=279）



- 性風俗産業従事歴ありの割合は、いずれの年も女性のほうが高かった
- 2025年に報告のあった梅毒症例のうち、性風俗産業従事歴ありの女性の割合は前年から減少し、不明及び未記載の割合が増加した

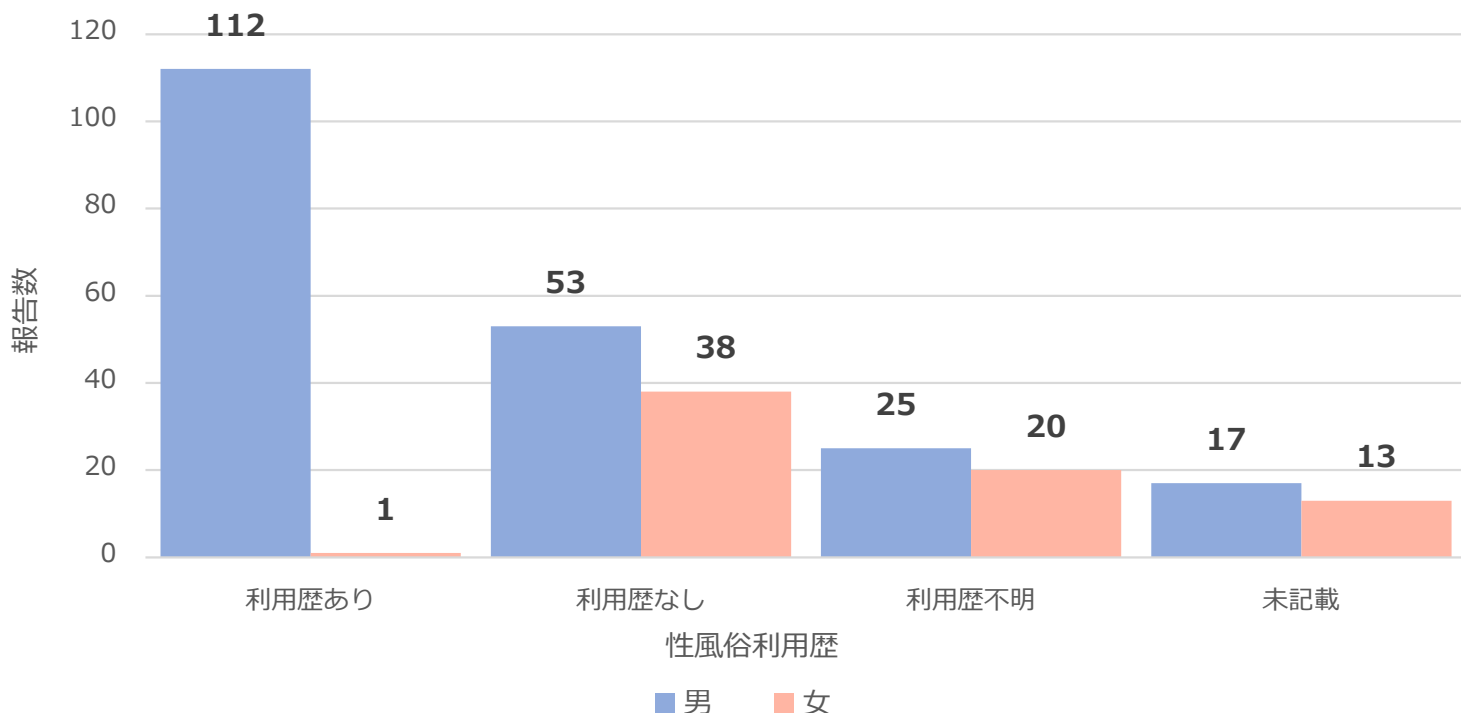
性風俗産業従事歴別 梅毒報告割合（2021年～2025年）



性風俗産業利用歴別 梅毒報告状況

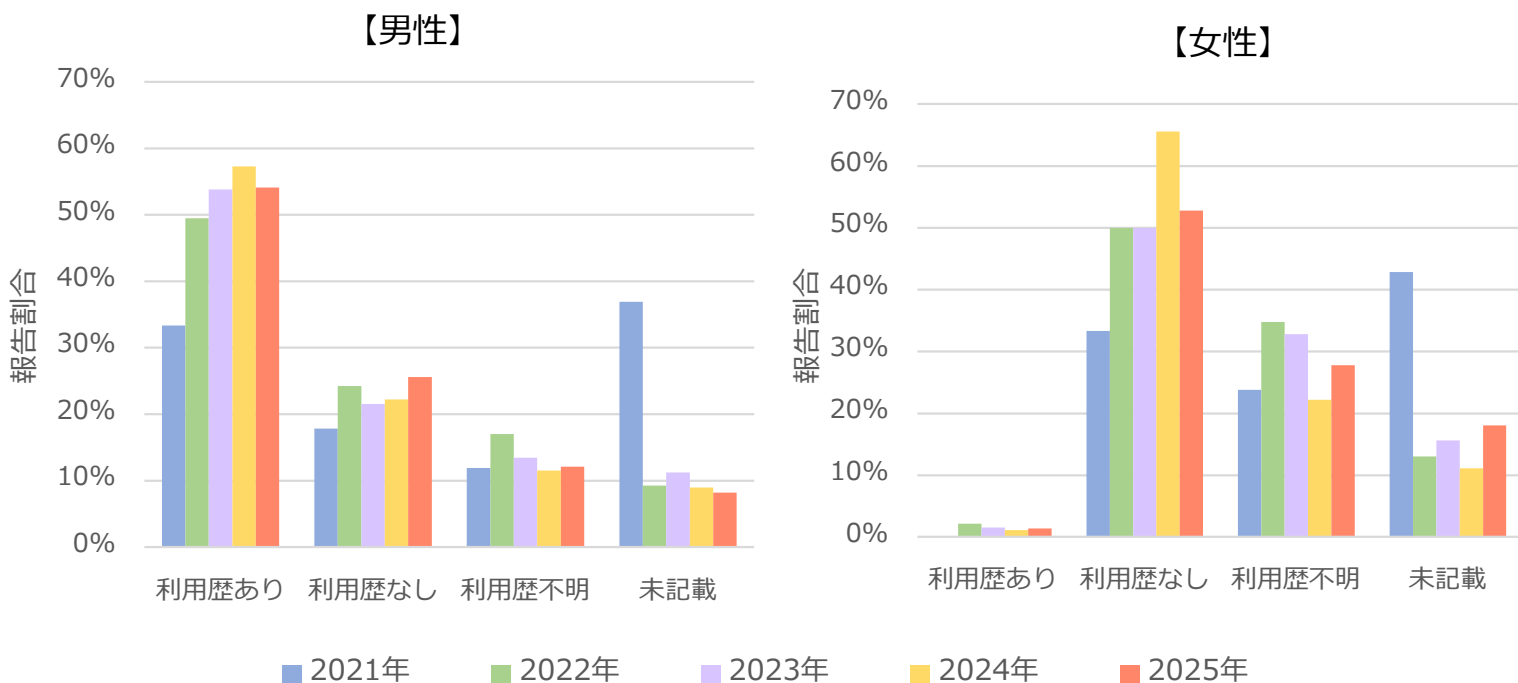
- 2025年に報告のあった梅毒症例のうち、性風俗産業利用歴ありの男性は112例（54%）、女性は1例（1%）と男性に多かった

茨城県内における性風俗利用歴別 梅毒報告数（2025年、n=279）



- 性風俗産業利用歴ありの男性症例の割合は、4年ぶりに減少し、利用歴なしの割合が増加した
- 梅毒女性症例は、利用歴なしの割合が減少し、利用歴不明及び未記載の割合が増加した

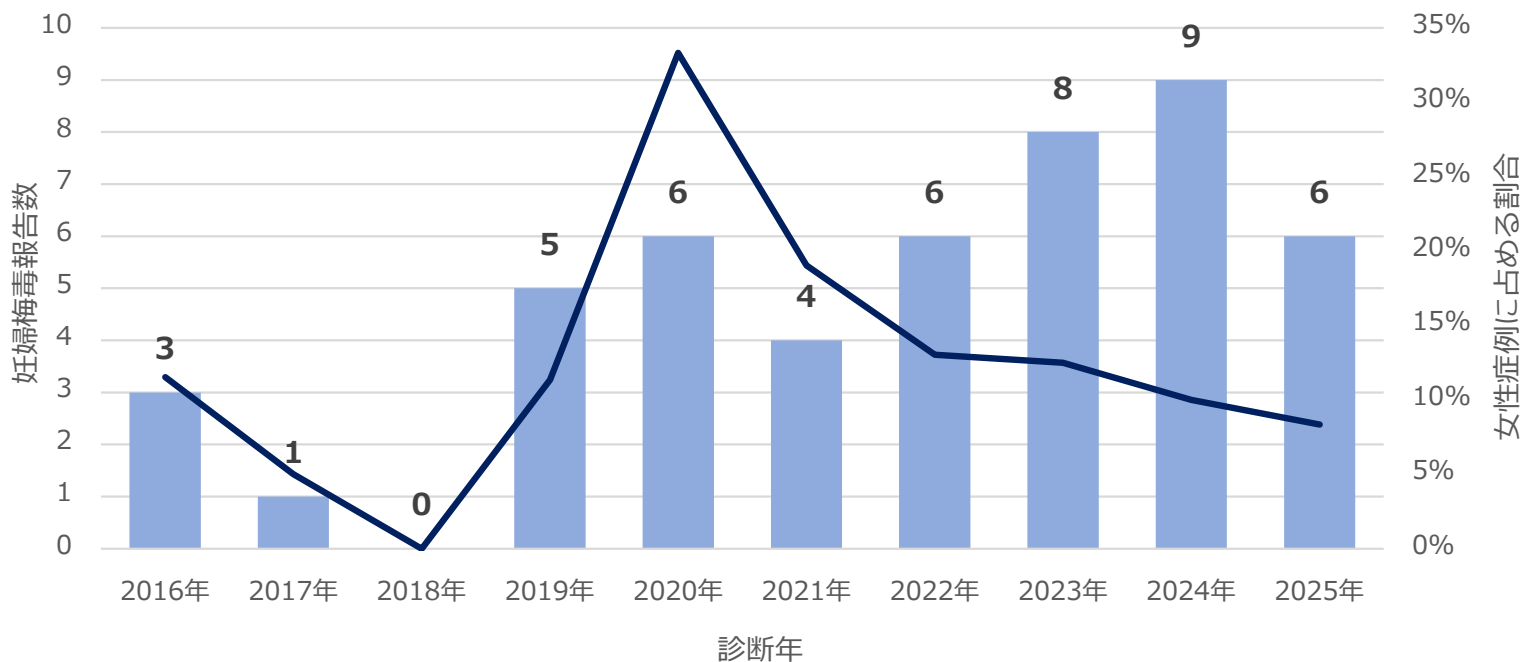
性風俗産業利用歴別 梅毒報告割合（2021年～2025年）



妊婦梅毒

- 茨城県内における妊婦梅毒報告数は4年ぶりに減少に転じ、2025年の妊婦梅毒症例は6例であった
- 梅毒女性症例に占める妊婦梅毒症例の割合は2020年以降、減少傾向が続いている

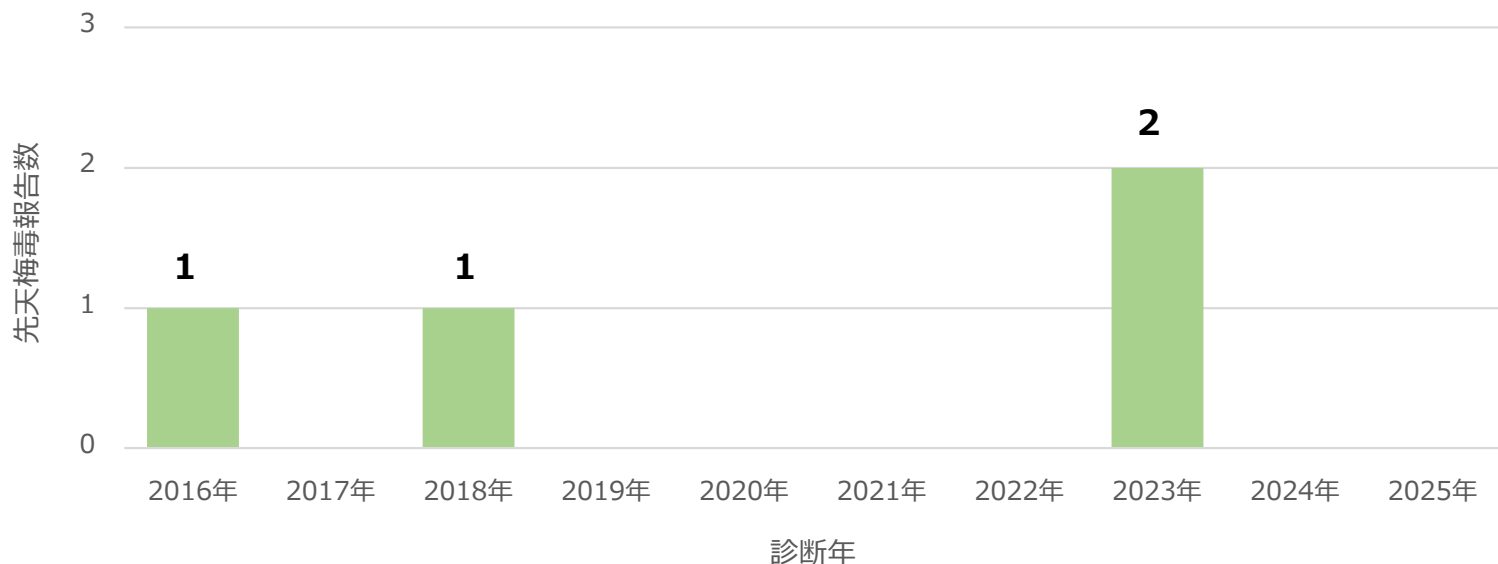
茨城県内における妊婦梅毒報告数（2016年～2025年）



- 2019年～2023年3月10日までは、感染症発生動向調査システムに登録された梅毒症例のうち「疾病共通備考欄」または「その他事項」の欄に「妊娠」の記載が含まれるものを抽出
- 2023年3月11日以降は、感染症発生動向調査システムに「妊娠の有無（女性のみ）」の欄が追加となったため、当該欄より抽出

先天梅毒

茨城県内における先天梅毒報告数（2016年～2025年）



茨城県における2025年に報告のあった梅毒症例のまとめ

- 茨城県における梅毒報告数は、**5年ぶりに減少**した
また、人口10万人当たり梅毒報告数も水戸市・中央保健所を除く保健所で前年から減少した
 - ・水戸市保健所（2024年：17.9 → 2025年：23.6）
 - ・中央保健所（2024年：3.9 → 2025年：6.1）
- 梅毒症例の性別・年代別の報告状況は、おおむね例年と同様の傾向であった
- 梅毒症例の病型は、前年とほぼ同様の傾向であり、男性は「早期顕症Ⅰ期」、女性は「早期顕症Ⅱ期」「無症候」が多いという性別による傾向の違いが確認された
- 梅毒症例の感染経路は、「異性間の性的接触」が最も多く、2022年以降は全体の70%以上を占めている
- 性風俗従事歴・利用歴については、男性のほうが「利用歴あり」の割合が高く、女性のほうが「従事歴あり」の割合が高かった
- 妊婦梅毒症例数は4年ぶりに減少に転じ、梅毒女性症例に占める妊婦梅毒の症例の割合は減少が続いている
- 茨城県内では2023年に2症例を最後に、先天梅毒症例報告は確認されていない

